

第10回全国国立大学病院集中治療部協議会議事録（案）

I. 日程

1. 平成7年3月2日（木）

東京医科歯科大学 医学部 大会議室

14:00 開会

- 1) 議長挨拶
- 2) 当番校病院長挨拶
- 3) 文部省挨拶
- 4) 議事

16:00 閉会

II. 議題

- ①. 国立大学集中治療部，モデルプランについての報告（群馬大学・国元副部長）
- ②. 保険診療枠の拡大（群馬大学，弘前大学，長崎大学）
- ③. 集中治療部の整備（人員増）について（香川医科大学，長崎大学，鳥取大学，信州大学，山口大学，鹿児島大学，北海道大学，弘前大学）
- ④. 集中治療部助教授籍の設置について（鹿児島大学）
- ⑤. 当直料支給（2名分）の要求について（北海道大学）
- ⑥. その他
  - 1) 集中治療部看護の実体と問題点（山形大学）
  - 2) 薬剤師の集中治療部に関わる業務について（鳥取大学）
- ⑦. 国立大学病院長会議上程議題の決定
- ⑧. 次期当番校の決定
- ⑨. その他

III. 出席者名簿（別紙）

文部省高等教育局医学教育課大学病院指導室	高杉室長	
東京医科歯科大学医学部附属病院	病院長	大島博幸
同	事務部長	山口 健太郎

## 1. 挨拶

### 1. 天羽議長挨拶

### 2. 当番校病院長挨拶

### 3. 高杉室長挨拶

平成7年度予算（政府案）の概要について

#### (1) 予算

##### ①. 国立大学特別会計について

郵政事業のように一定の収入がある部分に関してはそこで完結をした会計を組む方が効率的、合理的に処理できるとのことで、一般会計から切り離されている。国立大学は授業料、病院収入などで賄われている。平成7年度の国立大学特別会計には2兆5千360億円が計上されている。大学付属病院はこの中で頁大学病院として分類されており、5472億3000万円が計上されており、前年比153億4300万円増(2.9%)となっている。

病院収入は平成7年度4500億円を見込んでおり、この部分だけでも約1000億円近い赤字となる。この赤字は一般会計から賄っている。

##### ②. 医療費について

昨年までの医療費の体系を組立直し、①基準医療費(レセプト分)、②特別医療費(レセプト分からはみ出した分)、研究医療費(教育、研究のための医療費)の三本立てとした。患者医療費としては全体で約1990億円(前年度比2.2%増)を措置した。その中で特別医療費としては15億3000万円(前年度より3000万円増)、研究医療費として59億9000万円(前年度より約8億円増)の措置をしている。

##### ③. 病院特別医療器械整備費について

電波法の改正により古い医療用テレメーターは使用できなくなる。そこで、医療用テレメーターの置き換えにかかる費用を本年度、別枠で措置したのですべて置き換わるはずである。

##### ④. 院内感染予防対策費

HBワクチン、医療廃棄物の処理、MRSA対策、AIDS対策の費用として、昨年度12億7800万円から本年度16億5500万円(29.5%増)と大幅に増加している。

#### (2) 機構・定員

##### ①. 頁病院での定員の増員

平成6年度は132人であったのが平成7年度は134人と2人増えており極めて異例のことである。実際は通常ベースでは-6人となっている。これは、政府調達の高額機器の購入が日米構造協議により、最低価格入札方式から、1億3000万円以上の機器については総合評価方式となった。総合評価方式では、性能、価格など全体的に多項目にわたり点数をつけてその点数が最も高いものを採用する方式である。総合評価は専門家でないことができず、そのための助手を8人措置しているためである。

##### ②. 診療科の整備について

新設：(3施設) 徳島：形成外科、熊本：神経内科、大分医科大学：心臓血管外科  
診療科の整備は8施設。(教授だけのところに助教授、婦長だけのところに看護婦を配置した。)

中央診療施設の新設：九州大学の生体防御研に中央手術室を整備

特殊診療施設の新設：(16施設)

輸血部：山形大学、福井医科大学

病理部：千葉大学、長崎大学、鳥取大学

総合診療部：北海道大学，大阪大学  
医療情報部：筑波大学，富山医科薬科大学，神戸大学  
周産母子センター：三重大学  
リハビリテーション部：高知医科大学  
光学医療診療部：信州大学  
血液浄化療法部：琉球大学  
予防医療部：名古屋大学  
高齢者歯科治療部：東北大学

特殊診療施設の整備：昨年，一昨年新設されたところで，まだ助手のついていない所に3年度整備の型どおり助手を配置した。

薬剤師の配置：ICUに3人薬剤師を配置した。しかし，ICUで独占して使われたら困ると考えている。全国レベルで国立大学病院の薬剤師の定員は少ない。しかし，薬剤師の業務は将来増えると考えている。なお薬剤師の配置は全国的にみてもアンバランスとなっているので，高い所のレベルに低いところを引き上げたいと考えている。そこで，大蔵省，総務庁などの査定当局の理解を得るために，調剤，薬剤の種類ともに多いICUに薬剤師を配置した。そのため，大学全体の薬剤部業務としてその運用を考えてほしい。

その他の医療技術職員：放射線技師，検査技師，看護婦を含め96人，その内看護婦は87名を措置した。トピック的なこととして，infection control nurse を14名つけた。臨床工学技士は現在全国で49名であるがまず行（二）の振り替えで措置しているがその枠は53ありまだ振り替えが埋まっていない。これが埋まってからでないとなれば新たな要求はできない。

### ③. 病院の管理運営について

文部省では昨年9月に病院運営改善のための協議者会議をもうけ検討を行い，その報告書を各大学に送付した。これを大学病院全体の運営の参考資料としてほしい。

## 4. 高杉室長への質問事項

### (1) 北海道大学：杉本副部長

医員2，教官1の三名で当直しているが，当直料は1名分しかでていないので3名分の当直料の措置をお願いしたい。

高杉室長：

当直箇所と実際の当直は必ずしも一致していない。当直箇所の数とその人数は人事課が設定しており，権限外のことで答えられない。

### (2) 鹿児島大学：吉村部長

救急部の場合と同様にICUに助手振り替えの助教授の籍ができないか。

高杉室長：

助教授については可能性があると考えているが，昨年ICUの設置がようやく終わったばかりで整備が終わるのは再来年になる。そこでこの課題は再来年以降の課題となるであろう。

### (3) 鳥取大学：佐藤部長

薬剤師の配置についてその配置場所が重要で，ほかへ取り込まれてしまいICUの業務に支障を来すのが心配であり，何か良い考えがないか。

高杉室長：

ICUにおける薬剤業務がおろそかになっても良いというわけではないが，6～10床の所で薬剤師1名専属にというわけにはいかない。全体としての薬剤師の整備の一つの手段として考えている。そこで，薬剤部と相談して有効活用したら如何なものか，臨床工学

技士についても同様で、大学全体として融通していく体制を作ってもらふ事を期待している。

(4) 大阪大学：吉矢部長

特定機能病院におけるICUの方向性についての構想について伺いたい。

高杉室長：

現状はあと3大学をのぞき国立大学病院は全て特定機能病院となった。大学病院の機能としては、高度先進医療の実施と開発、学生の教育機能の2点であり、特定機能病院としては患者の紹介率30%の努力義務を持っている。本年度予算案で研究医療費を大幅に増やしたが、各大学がどの様なところに力を入れどの様に運営していくかを検討してもらい各大学の事情にあった形態を模索していってもらふつもりで、文部省の方からその形態について指示するつもりはない。

## II. 議題

(1) 国立大学集中治療部モデルプランについての報告。

天羽議長：

多くの大学が国立大学病院の集中治療部の標準的施設の基準が欲しいとのことでアンケート調査を実施し42大学中37校から回答があったので報告してもらふ。

群馬大学：国元副部長よりアンケートに関するほうこくがあった。

(協議会当日配布の資料を参照。)

(2) 阪神大震災における集中治療部の状態についての報告

神戸大学：尾原部長

建物の被害が少なく、非常電源がうまく作動し、酸素配管も無傷であったため一日も休診せず多くの患者を収容することができた。しかし、水の供給に問題が生じ、

9日間オートクレーブの稼働が停止し、手術数を制限しなくてはならなかった。また今回の震災の特徴であるクラッシュシンドロムに対する透析治療ができなかった。20例の腎不全例が来院したが、3例は早期に死亡、2例については当院で治療、15例は大阪市内の病院へ海上輸送により転院となった。被災地の多くの病院はライフライン、通信、交通手段の途絶により機能不全に陥ることが予想される。そこで、災害時の具体的対策について再検討が必要である。

(3) 保険診療枠の拡大(群馬、弘前、長崎大学)

提案理由

群馬大学：国元副部長

重症患者の治療には薬価の高い薬剤や血漿製剤の大量長期に使用が必要となることがあり査定減の問題が生じる。保険診療の上で特段の配慮が得られないかということも昨年の議題にも提出したが、高杉室長より、厚生省のほうに働きかけていったらどうかとのアドバイスをいただいたが、その働きかけがどの様に進んでいるかか伺いたい。

弘前大学、長崎大学からも同様の提案があった。

天羽議長より、昨年と同様に全国国立大学病院長会議の上程議題とすることが提案され了承された。

(4) 集中治療部の整備(人員増)について(香川医科大学、長崎大学、鳥取大学、信州大学、山口大学、鹿児島大学、北海道大学、弘前大学)

提案理由

鳥取大学：佐藤部長

臨床工学技士の措置を円滑に進めるために行(二)からの振り替えがすんでいないところは

振り替えへの努力をして欲しいとの発言があった。  
天羽議長より、昨年と同様に全国国立大学病院長会議の上程議題とすることが提案され了承された。

(5) 集中治療部の看護の実態と問題点について（山形大学）

提案理由

山形大学：塚本部長

他の部の協議会では分科会を持って実務者レベルで様々な討論を行っており、この協議会でもその様にして全国的に討論していったらいいか。

天羽議長より次回の協議会で具体的に検討することが提案された。

(6) 全国国立大学病院長会議への上程議題の決定

①保険診療枠の拡大

②集中治療部の整備（人員増）

③ICU基準面積の見直し

以上を上程議題とすることが承認された。

(7) 次回協議会の当番校の決定

次回当番校は名古屋大学と決定した。

(8) 年会費について

福井医科大学：後藤部長よりこの協議会を年会費で運営してはとの提案があり、その会費を公費で賄うためには請求書が必要であるとの発言があった。

天羽議長より今回会費を集めた経緯が説明され、年会費を集めるためには規約の改正が必要なことの説明があり、年会費については次回の協議会で検討することが提案された。

以上

（文責 東京医科歯科大学集中治療部）

第10回全国国立大学病院集中治療部協議会出席者名簿

大 学 名	官 職	出席者氏名	大 学 名	官 職	出席者氏名
北海道大学	副部長	杉本 久	岡山大学	副部長	時岡 宏明
弘前大学	部長 副部長	松本 明知 坪 敏仁	広島大学	講師	岡林 清司
東北大学	部長 副部長	橋本 保彦 松川 周	山口大学	助手	鶴田 良介
秋田大学	部長	鈴樹 正大	愛媛大学	部長	新井 達潤
山形大学	部長	塚本 長	徳島大学	部長 副部長	松本 圭蔵 加藤 道久
筑波大学	副部長	筒井 達夫	九州大学	副部長	谷山 卓郎
群馬大学	副部長	国元 文生	長崎大学	副部長	長谷場 純敬
千葉大	部長	平澤 博之	熊本大学	部長	岡元 和文
東京大学	部長	前川 和彦	鹿児島大学	部長	吉村 望
(当番校)			琉球大学	副部長	伊波 寛
東京医科歯科 大学	部長 副部長	天羽 敬祐 角田 幸雄	旭川医科大学	部長 副部長	久保 良彦 宮本 政治
新潟大学	副部長	佐藤 一範	福井医科大学	部長	後藤 幸生
金沢大学	部長	小林 勉	山梨医科大学	助手	西田 広一郎
信州大学	部長	小林 茂昭	滋賀医科大学	部長 副部長	天方 義邦 寺田 泰二
岐阜大学	部長 副部長	土肥 修司 赤松 繁	島根医科大学	副部長	斉藤 洋司
名古屋大学	部長 副部長	島田 康弘 武澤 純	香川医科大学	部長	小栗 顕示
三重大学	副部長	丸山 一男	高知医科大学	部長	真鍋 雅信
京都大学		村川 雅洋	佐賀医科大学	部長 副部長	十時 忠秀 北川 範人
大阪大学	部長 副部長	吉矢 生人 妙中 信之	大分医科大学	部長	本多 夏生
神戸大学	部長	尾原 秀史	宮崎医科大学	部長	高崎 真弓
鳥取大学	部長	佐藤 暢	富山医科大学	副部長	山崎 光章
			浜松医科大学	副部長	土井 松幸